

## フジテレビジョン殿

所在地：〒137-8088 東京都港区台場2-4-8 tel：(03) 5500-8888  
<http://www.fujitv.co.jp>



フジテレビジョン  
専任局長  
内田豊 様

株式会社フジテレビジョン殿は、昭和32年11月に設立、昭和34年3月に放送を開始されました。従業員数は1,354名。現在、東京お台場の本社スタジオをキーステーションに、フジネットワーク全国28局を構成しています。本社スタジオには、12のテレビスタジオ、送出マスター（主調整室）、回線センター、ハイビジョン編集室を含む8つの編集室などがあり、全館光ファイバーによるデジタル信号で網羅されています。社屋館内には放送に必要な回線が張り巡らされており、館内63箇所どこからでも簡単に放送ができるようになっています。25階にはスタジオとしても利用される球体展望室があり、1階には今回ご紹介するマルチシアターがあります。  
 また、現在の本社スタジオに程近い場所に、臨海副都心スタジオを平成19年3月の竣工を目指して建設準備中です。



「NEC製iS812K」を導入。  
 マルチシアターに、国内メーカー唯一のシネマ機



株式会社フジテレビジョン殿は、2003年7月の組織改編を機に、それまで編成制作局内にあった映画部が、映画事業局として新設されました。既に内外問わず優良な映画コンテンツの制作や調達に実績を挙げられていますが、2003年7月に劇場公開された「踊る大捜査線 THE MOVIE 2 レインボーブリッジを封鎖せよ！」が、実写映画の日本記録を20年ぶりに更新したのは、記憶に新しいところです。

フジテレビの映画事業についてお聞かせください。



内田様 フジテレビは日本最大の民放テレビ局で、元々が映像をベースにした企業です。映画部門については昔からかなり力を注いできて、最近はその充実に力を入れており、劇場用映画の自社制作をしています。映画制作のプロセスに、ハイビジョン制作も取り入れています。最近の代表的な作品は、去年の「踊る大捜査線 THE MOVIE2」などですね。映画制作自体はデジタルシネマの規格ではないですが、ハイビジョンの映像素材を使って後からフィルムに焼くという作業をかなり昔から行っています。少し前の作品の「南極物語」あたりから全編の一部に、「ハイビジョン素材からフィルム変換」を既に採用しています。

株式会社サンフォニックス 技術本部長 長谷川有 様  
長谷川様 実験的要素も取り入れており、素材をハイビジョンで作ってからフィルムとハイビジョン合成をしたり、フィルムとハイビジョンの画面を半々で構成する、などです。

マルチシアターの概要と実際のご利用についてお聞かせください。

内田様 このマルチシアターは、1997年お台場新社屋完成時に稼働を開始しました。座席数は135席あります。

長谷川様 スクリーンサイズは最大横幅6.55mに対応しています。スクリーンは既存のものを使用しています。

内田様 多目的に使うシアターホールになっていまして、自社制作作品の試写やお客様を入れての商業上映などに利用しています。ホール稼働率は80%以上ですね。オペレータが常駐し、多目的に運用しています。媒体としては、ビデオとフィルムではフィルムの稼働率のほうが高いです。最近話題になった「海猿（フィルム）」を、劇場上映に先駆けてここで試写会を行いました。

この夏のイベントは盛況でしたが

長谷川様 この夏は、「ハロー！プロジェクト・キッズ」主演の映画で「Promise Land ～グローバーズの大冒険～」をこのマルチシアターで公開しました。内容は冒険の旅に出るファンタジーです。Berryz工房（女の子8名ユニット）の4名が主役で後藤真希さんらも出演している、お子様向けの映画です。

内田様 お台場のイベント自体が商業（有料）イベントでして、イベントパスポートでマルチシアターに入場する仕組みですから、直接入場料は頂戴していません。

1年通して季節ごとに企画（イベント）を実施しますが、夏の企画は最大規模です。今年の夏の企画名は「冒険王」。冒険王の名前でやるのは今年で2回目です。夏の企画は局社屋が新宿区河田町にあった時代から、毎年欠かさず実施しています。昨年夏は350万人を動員し、今年は夏の東京ディズニーランドの動員数を上回る400万人を突破しました。企画自体はお台場地域全体の企画であり、フジテレビ単独ではないのですが、規模としてはフジテレビが最大級です。

今回の企画の対象客層はお子様と一緒にファミリー層です。若者対象の企画もありますが、子供から大人まで楽しめる企画を主に展開しています。代表的な企画として「トリビアの泉」があります。

22階の全フロアを使って展開し、お客様にとっては、ご自分がTV番組とリンクしている、番組に参加できる一体感がある、疑似体験ができるなど、ここでしか味わえないコンテンツでした。

長谷川様 2週間ほどここで「お笑い」を公演しました。スクリーン前のステージでコントをやりながら、バックのスクリーンに映像を映します。今の「お笑い」は映像などを交えてマルチに展開しているんですよ。

iS8-2K導入のきっかけをお聞かせください。



内田様 1997年のお台場新社屋完成時からつい最近まで、マルチシアターでは35ミリ映写機2台と、ビデオ素材上映用にILA方式のプロジェクタを使用していました。プロジェクタの寿命が近づき、後継機を模索していたところ、NEC製iS8-2Kの情報がありました。HD映像素材が、フルスペックで上映可能な機種を導入を検討していましたので、国内メーカー唯一のシネマ機は魅力でした。iS8-2Kの導入に際して、NECには「使い勝手を良くするための意見」を聞き入れてもらい、一般のプロジェクタには考慮されていないモニター系の充実とシャッターリモコンを作っていただきました。



長谷川様 普通の劇場運用では入力切り替えはほとんど無いですが、ここのシアターではハイビジョンやSDTV（標準テレビジョン）、PCとの切り替え運用をします。ですから、映像を遮断するためのリモート機能が必要になるし、映像の遮断後にはどんな画面が送出されるか、その確認が必須です。本番3秒前から映像送出するタイミングを取っています。「無駄な映像や画像やクレジットは出さない」といった観点から、NECに仕様を出してシステム化して作っていただきました。

今後の運用についてお聞かせ願えますか？

内田様 フルスペックハイビジョンの上映が可能になると、iS8-2Kの稼働は増えます。それに合わせて、運用方法も変わります。現在、5.1サラウンド環境を作って、フルスペックハイビジョンの上映を検討中です。

本日はありがとうございました。

▶▶ 拡大図はこちら

